

談することが大切であると考える。問題は、先輩からしめされた方法をそのまま、うのみにすることにあり。子どもは、一人として同じ子どもはいないはずである。と同じように、同じ条件の場面はほとんどない。先輩の意見を充分にきいて、一度自分の中で消化して、あらためて、自分の保育の中に生かす努力が必要である。このことは、いろいろな研究会においてもいえる。提示された具体的な保育の方法について、なぜこんな方法がとられたのか、その原理的なものをさぐり合うことが大切にならう。こうした地味な保育者の努力の中で、幼児教育は進展してゆくものと確信する。

昨年七月からつづいた保育者養成問題シリーズは今回で一応終わる。六人の筆者が、それぞれの立場でユニークな小論を書いた。しかし、底に流れるものは、すべて同じものである。「保育者養成とは、人間の魂の教育である」今回のシリーズ誕生の意味を大切に、今後とも保育者養成に関する研究に地味な努力を重ねたい。

(埼玉県立教員養成所)

幼児の教育 第七十一巻 第三号

三月号 © 定価一〇〇円

昭和四十七年二月二十五日印刷
昭和四十七年三月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

111 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします